

9月13日から5日間中国人民大学の研修へ参加しました。海外へ行くのは高校生以来だったので少し緊張していました。北京についてすぐ車の多さと空気が霞んでいることにテレビなどでみて知っていたとはいえ、驚きました。初日に一番インパクトが大きかったのは、食事です。日本で食べたことのある中華料理とは全然違ってよくわからないものばかりでとまどいました。見た目と想像していた味付けが違って1つ1つ疑いながら食べていました。もともとたくさん食べるほうではなく、好き嫌いも多いので食事の時間毎回辛い時が多かったです。

2日目は午前中に大学構内を案内されました。島根大学とはくらべものにならないほど大きくて、ここは本当に大学なのかと感じていました。中国の大学生はみな寮生活という日本の大学とはちがう部分もわかりましたし、施設が充実していてうらやましく思えました。午後からはこの研修のメインでもある発表でした。きちんと打ち合わせをしていたとはいえ、中国トップレベルの学生の前で発表するのは緊張しました。時間が押してしまって最後が駆け足になってしまいましたがいい発表会になったと思います。

3日目は北京郊外にある村に行きました。昔のまま村が残されていてタイムスリップしたようでした。ここで印象に残ったのは、村のつくりなどももちろんですが、戦時中に日本が村を攻撃した過去があるということです。こんな山奥まで攻撃していたのかと驚きましたし、何よりも日本が中国を攻撃して罪のない人たちを巻き込んでしまっていた事実について戦争を知らない私たちのような若い世代も受け止めないといけないと感じました。

4日目は万里の長城や天安門に行くことができました。万里の長城は、思っていたよりも傾斜がきつくてのぼるのが大変でしたが、登り切ったときには達成感がありました。これを昔の人がつくったと考えると技術とすごさを感じました。ただ、体力的にきつくてへろへろになってしまいました。天安門はテレビでみていたものの本物だと感動しました。直前までどちらかにしかいけないと言われていたので両方の場所に行くことができよかったです。また、ショッピングモールでの買い物もできて楽しかったです。



4泊5日かなりハードなスケジュールでしたが、たくさん場所を訪れることができたり、食べたり、もちろん勉強もでき、大変ではあったけど参加してよかったです。テレビなどメディアでは、日中関係はよくないと報道されていることが多いけど、現地に関わった人たちは全然そんなことなくみんな優しくかったです。ただ、マナーや衛生面はやっぱり日本がいいなと感じました。これらはどれも中国に行ってみないとわからないことだったので、体験するって大事なことだと改めて感じ貴重な経験になりました。